

緑の教育

始良・伊佐教育事務所 平成29年9月

緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心
緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力
緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体

「伸びたい」という心に寄り添う

所長 中山 恭平

「メタモルフォーゼ」とは、チョウがさなぎから成虫に変わるように生まれ変わる（変身する）様をいう言葉です。人は、だれもが“変身願望”を持っているのかもしれませんが。

その願望は、実は子どもの方が切実にあるように感じます。ほとんどの子どもが「もっとできるようになりたい。分かりたい。」「優しい人になりたい。友達と仲良くしたい。」という思いを持っていることを教師は気付いていると思います。ある施設に掲示してあった詩を紹介します。

がんばること

がんばることを知らなかった
がんばることがいやだった

がんばることの喜びを知らなかった
がんばることから逃げたかった

だけど今はちがう
がんばることの喜びを知った
がんばることからもう逃げない

がんばることを知った
がんばることが好きになってきた



支えてくれた先生 寮の友達 家族に感謝したい これから もっともっとがんばって
みんなに喜ばれるような私になりたい

子どもはみな、「伸びたい。」「よくなりたい。」という無限の変身願望を持っています。例えば、学級集団で担任や仲間と出会ったり、少年団活動や部活動でチームメートや指導者と出会い、生まれ変わったかのように成長し、可能性の芽を伸ばす子どもの姿を、多くの教師が自分自身の目で見て、経験してきているはずです。

私たち教師は、繰り返し指導しても同じ間違いをしたり、意欲的になれずにいたりする子どもたちを目の前にし、無力感にさいなまれることも少なくありません。つい子どものせいにしてしまったことを後悔したことがある教師は多いと思います。

子どもは、ほんの「小さなきっかけ」で伸びる存在です。成長する喜びを感じることで伸びしろは、どんどん広がります。私たち教師は、子どもの伸びようとする心と可能性を信じ、背中を押してやる存在だと思うのです。私は、教師がその努力をやめた瞬間（とき）に、教育はその光を失うことを肝に銘ずるべきだと考えます。

学校には、いろいろな子どもがいます。その中には、勉強の不得意な子、友達の少ない子どももいます。子どもたちにとって、学校で唯一の救いは教師とのつながりです。そのつながりが、わずかなものであればあるほど、子どもたちは、わずかなつながりに執着します。教師がどれだけ自分の側に立ち、自分のことにかかわってくれるか、子どもは懸命に察知しようとしています。わずかなつながりが絶ち切れたと感じたとき、子どもは学校に行くことをやめてしまうかもしれません。

子どもの側に立つということは、子どもに迎合することではありません。「教育の専門家」として子どもを指導する役目を担う教師は、子どもの側に立ち、子どもの目の高さでその姿を見たうえで、教師の側から、教師の目で見直して指導に生かさねばならないと私は思います。

教育事務所では、本県教育行政の基本目標や基本方針を踏まえ、かつ「緑の教育」を地区教育の基本理念として、様々な取組を行っています。

今回はその中から、今年度新たに始めた取組や、重点的に取り組んでいるものについて紹介します。

小中連携 ～9年間で子どもを育てる～

9年間の学びを一体のものとしてとらえ、小・中学校が連携して、児童生徒の発達段階を踏まえた一貫性のある指導を継続的・組織的に行うために、教育事務所では、「始良・伊佐地区小中連携推進プラン」を策定し、小中連携による生徒指導の充実、確かな学力の向上、安心・安全な学校づくりを通じた児童生徒の「生きる力」の育成を目指しています。

様々な事業を展開していますが、その一つが2年目となる「指導方法工夫改善加配の配置及び派遣」です。発達段階を踏まえた一貫性のある継続的・組織的な指導の定着を図るため、小中連携担当教諭を中学校区ごとに配置するもので、今年度は、3市6中学校区、11人の連携担当教諭が各学校区の特色を生かしながら次のような方法で、連携を推進しています。

- ・中学校の連携担当教諭が、校区内の複数の小学校を巡回する。
- ・小学校の連携担当教諭が、校区内の小・中学校を巡回する。
- ・小学校教諭が中学校に籍を置き、連携担当教諭として、他の小学校も巡回する。
- ・中学校の連携担当教諭が、特定の小学校に籍を置きながら他の小・中学校も巡回する。
- ・小学校籍の昨年度連携担当教諭が、中学校に籍を移し、1年生の授業を担当する。

1学期早々の4月に、始良・伊佐地区小中連携連絡協議会を開催しました。関係小中学校の管理職、連携担当教諭が一堂に会し、今年度の効果的な運営方法等について中学校区単位で情報交換を行いました。10月末には2回目の連絡協議会を予定しています。これまでの成果と課題について協議を深めるとともに、実践事例集の編集等、今年度の本事業のまとめに向けて準備を進めていきます。



【第1回始良・伊佐地区小中連携連絡協議会】

研究協力校等

今年度研究公開を行う学校です。公開当日の様子は、公開終了後、教育事務所のホームページで紹介します。

学 校 名	研 究 領 域, 教 科 等	公 開 日 等
始良市立松原なぎさ小学校	学力向上 (国語科: 地区)	H29. 11. 8
霧島市立天降川小学校	特別活動 (県)	H29. 11. 29
伊佐市立大口小学校, 大口東小学校, 牛尾小学校, 山野小学校, 平出水小学校, 羽月小学校, 羽月西小学校, 曾木小学校, 針持小学校, 大口中央中学校	英語教育 (文部科学省英語教育強化地域拠点事業)	H29. 11. 30
始良市立山田中学校	県租税教育研究委嘱校 (県)	H29. 12. 1
霧島市立霧島中学校	ICT利活用 (地区)	H29. 12. 7
伊佐市立大口東小学校	学力向上 (算数科: 地区)	H30. 1. 30
霧島市立陵南小学校	「たくましい“かごしまっ子”」育成推進事業 (体育科: 県)	H30. 2. 2
伊佐市立本城小学校	道徳 (地区)	H30. 2. 14
湧水町立幸田小学校	子どもの人権プロジェクト推進校 (県)	実践活動の継続

始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクト

教育事務所では、管内の小・中学校の教員によるプロジェクトチームを組織し、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の向上を目指した取組を行っています。

今年度は、平成 27・28 年度のプロジェクト研究推進員が作成した授業モデルの中から、各教科等でいくつかのモデルを検証・再構築し、地区内の先生方に還元することにより、児童生徒の学力向上を目指しています。

主な事業内容

- プロジェクト研究推進員・教科等顧問の委嘱とプロジェクト研究会の開催（年 4 回）
- 平成 27・28 年度に作成した評価問題に関連した授業モデルの検証と再構築

研究成果の還元

- 授業力向上研究会「始良・伊佐スキルアップセミナー」の開催による研究成果の発表
- 地区教育実践事例集「緑の教育」の刊行による、再構築した授業モデルに係る資料等の提供
- 「かごしま学力向上支援 Web システム」による授業モデル等の配信



【第 1 回プロジェクト研究会】

平成 29 年度始良・伊佐スキルアップセミナー

期 日 平成 30 年 1 月 25 日（木）

場 所 始良市始良公民館

当日は、再構築した授業モデルについて発表します。現在地区内の先生方の授業実践の参考になるよう、各教科等部会のプロジェクト研究推進員が、検証中です。多くの先生方の参加をお待ちしています。

特別支援教育における学校間連携の充実に向けて～学校間連携コーディネーター～

特別な支援が必要な児童生徒に対する切れ目のない支援の充実を図るため、学校間の連携が重要です。つまり、就学前から学校卒業後までの一貫した支援体制を構築していく必要があります。

今年度、教育事務所に「学校間連携コーディネーター」が配置され、次の業務を行っています。

- 小・中・高等学校の計画訪問による学校間の引継ぎの状況・課題等についての把握や相談対応、指導助言
- 校内研修等における講話

9 月末までに、37 校（高等学校を含む）へ訪問しました。その中で、次のような課題が明らかになりました。

課 題	対 応 策
・ 連絡会で引継ぎが行われているが、時間に限りがあり、内容が十分に伝えられないことがある。	・ 引継ぐ際には、口頭だけでなく資料による引継ぎが効果的である。移行支援シートの活用だけでなく、児童生徒の合理的配慮に基づく、効果のあった実践例などもまとめておくとスムーズな移行支援につながる。

これから訪問の学校はもちろん、一度訪問した学校でも、学校間連携に関することや特別支援教育に関する相談等ありましたら、市町教育委員会を通じ、教育事務所までお知らせください。

生徒指導 喫緊の課題～「不登校に関する事例研究会」より～

本地区の不登校児童生徒数は増加傾向にあり、生徒指導上の大きな課題となっています。「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、昨年度、学校を30日以上欠席した児童生徒数は、小学校で57人、中学校で255人にのぼります。

9月7日、不登校児童生徒やその家庭への支援方法、学校としての取組や外部機関との連携等について、パネルディスカッションや専門家による講話等を通じた研究会を実施しました。不登校の未然防止や早期発見・早期対応、長期化している児童・生徒への自立支援等、解決に向けてのヒントが得られた充実した研究会となりました。



パネルディスカッション

徳石校長（国分西小），有村校長（大口中央中），堀口校長（重富中），小榎田教育相談員（鹿児島高）の各パネラーから、人間関係づくりの取組や不登校解消事例，現在の課題等の紹介がありました。フロアとの活発な質疑応答，体験談の紹介等がなされ，課題解決のヒントを共有することができました。



講師による講話

鹿児島大学教育学研究科教職大学院の関山徹准教授からは「再登校支援における多面的理解と多層的取組」と題して講話をいただきました。現代のストレス理論に基づいた不登校の早期発見や早期対応の手立て，学校の実情にあった個別の支援シートづくり等について具体的な指導をいただきました。

Mom！学級づくり連続講座



本年度から始良・伊佐地区で、学校力向上人権教育研修の取組として「Mom！学級づくりにおける連続講座」を実施しています。

本講座は、子ども同士が支え合う人間関係を構築し、子どもと教師が確かな人間関係で向き合うなど、教育活動の基盤となる学級経営について深く追究し、実践力を備えた指導者を育成することを目的としています。

児童生徒理解に基づく3つのキーワードの「見つめる：M」「思いをめぐらす：o」「向き合う：m」のそれぞれ頭文字を取ってMom（モム）と総称しています。

【受講者の感想】

子どもと向き合うことの大切さを改めて実感しました。現在自分が担任している学級では、1学期末にいろいろとうまくいかないことが起きたり、悩んだりする子どもが何人もいました。その一人一人に真剣に向き合い、少しでも心が軽く安心できるようになればと思い、2学期も頑張ろうと思いました。お話を聞かせていただき、自分自身が前向きになれたと思います。

食に関する指導の充実 ～栄養教諭を中核にしたこれからの学校の食育～

私たちを取り巻く社会環境・生活環境の急速な変化は、児童生徒の心身の健康にも大きな影響を与えており、生活習慣の乱れ、家庭の貧困などの課題、アレルギー疾患等の様々な疾病等への対応、偏った栄養摂取など食生活の乱れ、肥満・痩身傾向など、様々な課題が顕在化しています。

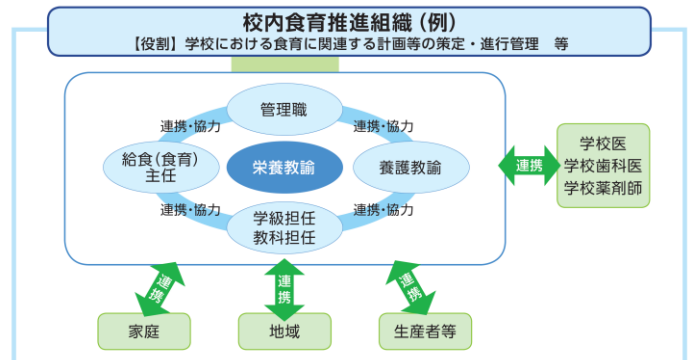
特に、食に関することは、人間が生きていく上での基本的な営みの一つであり、生涯にわたって健康な生活を送るため、児童生徒が健全な食習慣を身に付けることが重要となっています。

学校における食に関する指導の充実を図るためには、栄養管理，食物アレルギー対応，衛生管理等の専門的知識を有した栄養教諭の授業への参画が鍵となります。

鹿児島県教育振興基本計画における数値目標では、栄養教諭が授業に参画している学校の割合を平成30年度に100%にすることを目指しています。今一度、それぞれの活用状況を確認し、栄養教諭の参画による授業の積極的な取組を推進してください。

【栄養教諭とのTT授業の状況と数値目標～始良・伊佐地区～（学校保健活動状況調査より）】

小学校					中学校				
H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30
90.0%	94.4%	100%	➡	100%	84.0%	59.6%	82.6%	➡	100%



【栄養教諭を中核にしたこれからの学校の食育】

運動部活動の教育的意義とこれからの在り方 ～適切な運営を目指して～

1 運動部活動の教育的意義

運動部活動は、学校教育活動の一環として、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒が、教師(顧問)の指導のもとに、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動であるとともに、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動です。

2 運動部活動のこれからの在り方

指導者は、運動部活動の意義を踏まえながら、生徒が運動部の活動に積極的に参加できるように配慮することが大切です。

また、生徒の能力等に応じた技能や記録の向上を目指すとともに、互いに協力し合って友情を深めるなど好ましい人間関係を育てるよう適切な指導を行う必要があります。

さらに、運動部の活動の意義が十分に発揮されるよう、生徒の個性の尊重と柔軟な運営に留意し、生徒のバランスのとれた生活や成長のためにも休養日や練習時間を適切に設定するなど、生徒の能力・適正、興味・関心等に応じつつ、健康・安全に留意し適切な活動が行われるよう配慮して指導する必要があります。

したがって、これからの学校教育の目指す方向を踏まえつつ、今後の運動部活動の在り方を考えると、右の視点が基本です。

3 運動部活動の指導者の役割

運動部活動の指導において、指導者は、自分の思うとおりに選手を動かすのではなく、選手の肉体的成長を引き起こすような指導方法とは何かということを追求することが大切になります。【引用：運動部活動指導の手引き(一部改訂版) 平成29年3月鹿児島県教育委員会】



- (1) 生徒の個性の尊重と柔軟な運営
- (2) 生徒の生活のバランスの確保
- (3) 開かれた運動部活動

かごしま国体「チームかごしま」プロジェクト～ジュニアアスリートの決定～

8月28日に「チームかごしま」ジュニアアスリート認定証授与式が開催されました。ジュニアアスリートの認定は、「燃ゆる感動かごしま国体」で活躍が期待できる有望なジュニア選手に対して、本県代表候補選手としての意識を高め、競技力向上に対する取組の充実を図ることを趣旨としています。

本地区からは、22競技88人（1人は2競技兼任）の児童生徒がジュニアアスリートとして認定されました。3年後のかごしま国体での活躍を期待します。

なお、一部の競技については、現在競技団体と連携し、選手の発掘から育成を行っています。

競技名	認定者数		競技名	認定者数	
	児童	生徒		児童	生徒
陸上		7人	柔道		2人
体操		3人	剣道		1人
水泳		1人	弓道		3人
バレーボール		11人	銃剣道		2人
バスケットボール		2人	ボウリング		3人
ハンドボール		19人	アーチェリー	2人	1人
サッカー		5人	カヌー	2人	5人
ラグビーフットボール		6人	ゴルフ	1人	
ソフトボール		5人	馬術	1人	1人
ソフトテニス		1人	山岳・スポーツクライミング		2人
卓球		1人	スキー		2人



新しい時代の教育や地方創生の実現に向けて ～地区公民館活動研究大会～

7月21日に霧島市の国分シビックセンターにおいて、始良・伊佐教育事務所、地区社会教育振興会主催による「始良・伊佐地区公民館活動研究大会」を開催しました。

この研究大会は、住民の連帯感や人権感覚を高め、地域ぐるみの教育等による住みよい地域づくりを目指すことを目的としています。

霧島市の上小川地区自治公民館からは、男性ボランティアグループ「うぶすな会」の交通安全見守りやあいさつ運動などの紹介、また、霧島市の小野地区公民館からは、地曳き網、竹弓づくりなどの体験活動による「生きる力」を育む取組の紹介がありました。

「人の子も我が子も同じ地域の子」という言葉があるように、子どもを地域で育てる風土がしっかりと残っていることが再確認できました。「地域学校協働活動」「コミュニティースクール」という言葉が聞かれるようになりました。これからは、学校と地域がより一層つながり、互いにその役割と責任を十分に確認し、「支援」から「連携・協働」といった考え方へと進めていくことが求められていきます。



【実践事例発表】

(指導課長 木原田 雅彦)

努められた実践や研究の情報を提供し、今年もこの便りを通して、子どもや学校の研究公開の機会を多く取りたい。また、地域の現状や課題を把握し、地域学校協働活動やコミュニティースクールの推進を図りたい。そして、地域の子どもを育てる風土をしっかりと残すことが大切だ。学校と地域がより一層つながり、互いに役割と責任を確認し、「支援」から「連携・協働」という考え方に進んでいくことが求められる。

編集後記

夜風が心地よくなると、季節は秋。今年もこの便りを通して、子どもや学校の研究公開の機会を多く取りたい。また、地域の現状や課題を把握し、地域学校協働活動やコミュニティースクールの推進を図りたい。そして、地域の子どもを育てる風土をしっかりと残すことが大切だ。学校と地域がより一層つながり、互いに役割と責任を確認し、「支援」から「連携・協働」という考え方に進んでいくことが求められる。